

## 仏の印相 (いんそう・いんぞう) について

仏像の手の形や組み方を印契あるいは印相といい、略して「印」と呼びます。

印は、サンスクリット語で「身振り」を意味するムドラーから来た言葉で、本来釈迦の身振りから生まれたものです。特に密教では、誓願や功德を表わすものとして重要視され、教義の発展と共に細分化体系化されました。

古来インドでは手の形で意志を現す習慣がありました。これから発展して印相が生まれました。

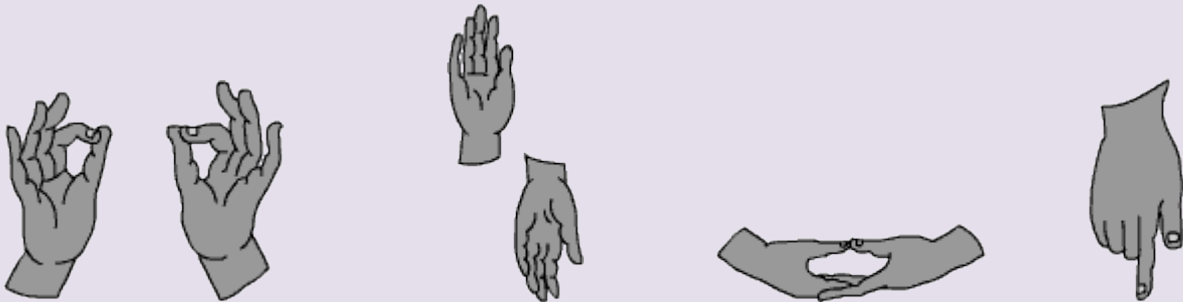
印相は印契(いんけい)ともいいます。ふつうは簡単に印(いん)と呼ばれています。

印は指で輪を作ったり、両手を組み合わせていろいろな形をつくり出します。

印は仏様の御利益や担当部門、意志などを象徴的に表します。

したがって仏像を見分けるときの重要なポイントにもなります。

[釈迦の五印]—釈迦の様々な身振りを表わしたもの。



- ・**説法印** (せっぽういん) (転法輪印) ...釈迦が最初の説法をしたときの身振りをとらえたもの  
胸の前で両手を組み合わせた印で、釈迦が悟りを開いた後、最初に説法を行なった時の姿を表わし転法輪印(てんぼうりんいん)とも言う。釈迦がさまざまな身振りで説法を行なったことから、いくつかの印がある。
- ・**施無畏印**(せむいいん)...人々を安心させる身振り  
手を胸の前に上げ、掌を正面に向けた印で、人々の恐れを取り除く事を表わす。  
右手を施無畏印とすることが多い。
- ・**与願印**(よがんいん)...人々の願いを聞き入れ望むものを与えようとする身振りで、深い慈悲を表わしている。  
手を下げ、掌を正面に向けた印で、人々の願いを聞き入れ、望みを叶える事を表わす。  
左手を与願印とすることが多い。
- ・**定印** (禅定印) (ぜんじょういん) ...  
心の安定を表わす身振りで、釈迦が悟りを開いたときの姿をとらえたもの。  
膝の前で掌を上に向け、左手の上に右手を重ね、親指の先を合わせた印で、釈迦が瞑想している時の姿を表わす。
- ・阿弥陀如来の場合は、**阿弥陀定印** (あみだじょういん)、  
胎蔵界大日如来の場合は**法界定印** (ほうかいじょういん) と言
- ・**降魔印** (ごうまいん) (**触地印** (そくちいん・そくじいん) )...悪魔を退ける身振り  
(釈迦が悟りを開いたあと悪魔が悟りの邪魔をしにやってきた 際に、釈迦が指先を地面に触れると地神が現れて釈迦の悟り証明しこれを見た悪魔が退散したという話からそのときの釈迦をとらえたもの)  
右手をひざの前で伏せ、人差指を下に伸ばし、地面に触れる印で、触地印(そくちいん)とも言う。阿しゅく如来も降魔印をとることがある。(中指と二本もある。)